



できごと

今年度の国際子ども図書館児童文学連続講座が、平成21年11月9日と10日の2日間の日程で開催されました。今回の講座の総合テーマは、^{みやかわたけお}宮川健郎氏監修による「いつ、何と出会うか - 赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで」でした。赤ちゃん絵本と幼年童話、紙芝居、ヤングアダルト文学について、それぞれどのような歴史があるのか、また現状がどのようになっているのかといった点について、作品などの具体例を挙げながら詳細に解説されました。出版の傾向が変化してきた社会的背景などにも言及し、深く掘り下げられた内容の意義のある講座でした。

(裏面にて、概要を紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

耐震補強工事のためお休みしています。

イベント情報

子ども読書推進講座

科学の本をもっと身近に おはなしと科学あそび

科学の本のおはなしと科学遊びを通して、科学の本の楽しさを知っていただける講座です。

日時：平成22年1月16日(土)午後1時30分~4時

会場：袋井市立浅羽図書館 2階 視聴覚室
袋井市浅名 976-1

講師：増本 裕江氏(日本子どもの本研究会)

受講料：無料

参加対象：科学の本・科学遊びに興味のある方

定員：およそ54人

問合先：袋井市内の図書館

浅羽図書館 TEL・FAX：0538-23-6801

袋井図書館 TEL: 42-5325 FAX：45-0569

月見の里学遊館図書館分室 TEL・FAX: 49-3402

新着図書から

物語

『ジェミーと走る夏』



エイドリアン・フォゲリン / 作

千葉 茂樹 / 訳

沢田 としき / 画

ポプラ社

2009年7月

フロリダ州に住むキャスは走るのが大好きな女の子。夏休みに隣に越してきた黒人の女の子ジェミーも走るのが得意。走ることと本の朗読を通じて仲良くなった2人だが、黒人嫌いのキャスの父と、白人から差別を受けてきたジェミーの母は2人の友情に猛反対。2人のよき理解者で、黒人差別との戦いの歴史を語って聞かせるジェミーの祖母が魅力的。やがて少しずつ歩み寄る2つの家族。大人の葛藤を尻目に、チャリティレースで助け合いながら未来に向かってゴールする2人が頼もしい。【小学校高学年から】 (牧田)

絵本

『はじめてのうちゅうえほん』



てづか あけみ / さく・え

ピエ・ブックス

2009年7月

当世風のイラストを用いて、月、太陽、地球をはじめとする太陽系の各惑星、彗星、流星群、銀河系など、宇宙についての様々な知識を伝える。惑星を身近なものに例えて比較するなど、子どもにも分かりやすく説明している。監修は、長く日本の宇宙開発に携わってきた的川泰宣氏。火星での水の発見について触れるなど、最新の情報に基づいて記述されている。

全体を通して平仮名で書かれ、絵本仕立てになっているが、内容の理解にはある程度の基礎知識が必要。【小学校中学年から】 (鈴木由)

講座報告『いつ、何と出会うか - 赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで』

今回の講座の中から、後路好章^{うしろよしあき}氏の「赤ちゃん絵本 赤ちゃんは音を食べる」と宮川健郎氏の「幼年童話」の講演の一部を紹介します。

赤ちゃん絵本について
《現状》赤ちゃんに絵本を手渡そうというブックスタート運動が全国の約半数の市町村で実施されており、赤ちゃん絵本と研究書の出版点数も増加しています。

《発達と絵本》赤ちゃんとお母さんは互いに関わりを持ちながら育ちます。絵本はその関わりを持つためのツールとなります。無理に物語を読み聞かせる必要はありません。始めは絵本を「おもちゃ」として赤ちゃんに与えてよいそうです。

様々な赤ちゃん絵本
《創世記》1967年に出版された松谷みよ子氏の『いないいないばあ』は日本で最初の赤ちゃん絵本です。この頃から2場面1単位という赤ちゃん絵本の基本的な構成が見られます。

《ことばの絵本》谷川俊太郎の『ももももこ』のように、読み聞かせて音の響きを楽しめる絵本があります。日本語には擬音語や擬態語が多いという特徴があり、それらには畳み掛けるように繰り返される「畳語^{じょうご}」が多いです。英語に訳された絵本もありますが、畳語の翻訳は困難です。

《スキンシップ絵本》松岡達英の『ぴょーん』など、読み聞かせたときに子どもの方から自然とスキンシップを求めてくるような絵本もあります。場合によっては赤ちゃんとお母さんと楽しむことを第一に考えた読み聞かせがあってもよいと思います。

幼年童話について
《現状》幼年童話は学齢前から小学校低学年程度を対象としています。最近、絵本やヤングアダルト文学が盛んになっていますが、これに対し、幼年童話の分野は空洞化しています。

幼年童話の歴史
《成立》千葉県三が1929年に出版した『ワンワンものがたり』や浜田廣介の童話が幼年童話のはしりと考えられます。

《音読から黙読へ》対象年齢を上げた現代児童文学が成立して「書き言葉」としての緻密化が進むにつれ、現代児童文学は「声」と分かれていきました。そんな中で、それまでの幼年童話は書き言葉として低い評価を受けたこともありましたが、その後、子どもに読んで聞かせるものとして幼年童話は再評価されてきました。

多様化した幼年童話
《問題提起》小沢正の『目をさませトラゴロウ』では、「自分とは何か」というアイデンティティの問題が取り上げられています。

《俳句との共通性》正道かほるの『チカちゃん』のように、俳句にも見られる省略と暗示の技法によって生まれる「余白」を活かした童話もあります。

《現代児童文学批判》いとうひろしの『おさる』のシリーズでは、平坦な毎日の繰り返しをあえて書くことによって、逆説的に成長物語を示していると同時に、「もう少しのんびりしてもよいのではないか」という現代児童文学批判にもなっています。

* なお、子ども図書研究室では過去に行われた児童文学連続講座の講義録を所蔵しております。

所蔵資料から

絵本



『いないいないばあ』

松谷 みよ子 / 文

瀬川 康男 / え

童心社

1967年4月

(1981年5月改版)

赤ちゃん絵本の原点かつ定番であり、現在でも人気が高い。ネコやクマ、ネズミといったおなじみの動物が、ページをめくるごとにいないいないばあをしていくというわかりやすい構成で、赤ちゃんにもなじみやすい。【0歳から】

(剣持)

* 表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。